

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 145 号

2015/10/5 発行  
株式会社 立花商店  
坂元 麻美

### 1、市況の動き：両市場とも週を通して続落、先週比でも下落

- ① 最高 12 月 LDN 市場 £ 2,210 /12 月 NY 市場\$ 3,242 (9/28) 先週比 LDN **-43** / NY **-73**  
② 最低：12 月 LDN 市場 £ 2121 /12 月 NY 市場\$ 3,087 (10/2) 先週比 LDN **-95**/ NY **-189**  
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £ 89 (傾向↑) / NY 市場\$ 155 (傾向↑)



LD	9月28日(月)	9月29日(火)	9月30日(水)	10月1日(木)	10月2日(金)
15-Dec	<b>2210</b>	2179	2140	2132	<b>2121</b>

NY	9月28日(月)	9月29日(火)	9月30日(水)	10月1日(木)	10月2日(金)
15-Dec	<b>3242</b>	3182	3114	3105	<b>3087</b>

### 2、カカオ、チョコレート価格は短期的にも長期的にも上昇か(9/13)

- アイボリーの選挙は注視すべき短期的に最も重要なイベント
- 乾燥気候による生産量低下により今後6か月の取引価格が決まるだろう
- 長期的には需要が増加傾向の中、農家の高齢化とカカオ樹木の老朽化の問題に直面するだろう

今後5年間で世界におけるチョコレート需要が増加するとみられる中、何とか需要を満たすために生産量を伸ばす試みがなされている。しかし実際には零細農家の問題、不確かな天候条件、政治不安、農家の高齢化、カカオ樹木の老朽化など様々な問題に直面しており、短期的にも長期的にもカカオ豆先物価格は上昇傾向にある。

アイボリーでは政府によるカカオ農政の改革で劇的に生産量を伸ばしてきたが、近く選挙が行われるため今後の政策が不透明とされる。それに加え乾燥気候の影響も懸念されている。2014/15期の生産量は174万トンとの予測があり、昨年とほぼ同水準とみられている。10月から始まる次のシーズンでは15万トンほど生産量が低下するとみられている。この要因もやはり雨不足である。世界最大のカカオ生産量を誇るアイボリーでの生産量低下は大きな問題になると考えられる。

生産量世界第2位のガーナでも、生産量が昨年比で22%も下落するという不安がのしかかっている。要因としては国際カカオ機関による肥料や農薬配布が遅れたことによりカカオが枯れてしまったことが挙げられる。ガーナのカカオ豆生産量は100万トンとの予測から大きく下落し、実際には69万6000トンにとどまった。

生産量世界第3位のインドネシアでは昨年同様の40万トンを維持。しかしインドネシアもアイボリー同様にカカオ樹木の老朽化の問題があり、今後の生産量の増加は難しいとされる。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545    w-ikuta@tachibana-grp.co.jp